



それぞれのタイムや、区間賞が速報でリアルタイム更新されていく。

まさに「参加することに意義がある枠」のチームもあり、公式エントリーと合わせると全部で29チームも参加する。箱根駅伝のエントリーが21チームなので、チーム数で言えばこちらの方が完全に上なのだ。

会場には各自治会の選手、サポート役以外にも、応援団やギャラリイなど、500人ほどは集まっているだろうか。この駅伝大会は自治会間の交流だけでなく、この後に控える「おだわら駅伝競走大会」を占う、前哨戦としての意味合いも濃いため、参加者の真剣度合いも高く、選手たちのウォーミングアップも余念がなく、コーチたちのアドバイスの声にも緊張感がある。

優勝杯の返還、来賓挨拶など開会式をすませスタート地点に第一走者が揃い、午前9時に小田原市長のスタートピストルの合図でレーススタート！一斉にいろいろな応援の声が飛ぶ。大体中学生から、24歳くらいまでの選手が多いらしく、その背景は高校の野球部や、中学のバスケット部、もちろん陸上部など様々。つまり



酒匂地区体育協会のみなさん。当日は朝6時30分に集合して準備。事故もなく終わってほっと一安心な笑顔の集合写真。おつかれさまでした。

特に資格などはなく、老若男女、いずれもスポーツが好きな面々が、それぞれの自治会から、選手や裏方として参加しているのだ。だからギャラリイもまたそのつながりが多いらしく、下の名前を呼んで応援していることがほとんどで、選手の方も、嬉しそうだったり、少し恥ずかしそうだったり、取り合えず真剣な顔で通り過ぎてみたりと、見ているとそれぞれの気持ち伝わってくる。

スタートからしばらくして、外のコースへ出てみた。珍しく元旦に降った雪がまだ残っている箇所もあったが、快晴の田園風景の向こうに綺麗な富士山を望む、なんとも贅沢な景勝地的駅伝コースであった。そこを、様々な年格好のランナーが真剣に、リズムよく走りすぎていく。

お正月の澄んだ清々しい空気と、富士山と、田んぼと、それぞれ自分の暮らす自治会を代表して走る駅伝ランナーたち。今年もここには、この瞬間この風景が持っている、なんともいえないやさしさが、まちがいなく流れていた。



川東体育連盟会長の佐々木隆之さん(酒匂)。「おだわら駅伝を間近に控え、各地区、選手のためしの意義をふくめた大会になっています。この大会が長く続いていることは、地域の協力で成り立っていることだと思います。これからも地域とのつながりを深くし、100回、200回と大会を続けてまいりたいと思います。



上/先導車だっこのとおり。ぬかりはありません。下/運営は毎年順番に各自治会が担当するのが決まり。今年酒匂地区が担当。大会前から綿密な打ち合わせが行われる。



田んぼ脇の沿道からも応援が飛ぶ。

